

報道発表資料
平成24年4月25日
気象庁

気象庁地磁気観測所の開所100周年を記念した国際研究集会の開催

来年(平成25年)1月1日、気象庁地磁気観測所(茨城県石岡市柿岡)は、地磁気観測開始100周年を迎えます。この記念すべき年を迎えるにあたり、本年5月24日に「柿岡の地磁気観測100年ー地球物理学への100年の貢献ー」と題した国際研究集会を幕張メッセで開催します。これは、日本地球惑星科学連合2012年大会のセッションの一つです。

気象庁地磁気観測所は、地球電磁気に関する観測データを国内外の政府・研究機関に提供しており、地磁気の変化から火山活動を捉える調査研究や国土の測量等の基礎資料として利用されているほか、(独)情報通信研究機構において、通信や交通に影響を与える磁気嵐に関する監視・予測情報を作成するためにも利用されています。また、地磁気は、人体・生態系に有害な宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線が地表に直接降り注ぐのを防ぐ働きをしていますが、地磁気観測所をはじめとする国際的な長期観測データから、最近の100年間で地磁気の強度は5%以上減少したことがわかりました。

このように、長期間同じ場所で観測を続けてきた柿岡の地磁気観測所は、世界でも貴重な観測点の一つとして大きな貢献をしてきました。

今回開催するセッションでは、国内外から多くの地磁気研究の専門家が参加し、25の講演が行われる予定です(詳細別紙)。国際研究集会での議論をとおして、柿岡における過去100年間の地磁気観測の成果を振り返り、地磁気観測と研究の将来の展望を示すことを目指します。

本件に関する問い合わせ先:気象庁地磁気観測所技術課
電話 0299-43-1876(直通)

日本地球惑星科学連合 2012 年大会
セッション「柿岡での地磁気観測 100 年」

英文タイトル：

“100 Years of Geomagnetic Observations at KAKIOKA – Contributions to Centennial Progress of Geophysics”

セッション会場： 幕張メッセ国際会議場（千葉市美浜区中瀬 2-1）

日程： 平成 24 年 5 月 24 日（木）

使用言語： 英語（通訳はありません）

講演数： 口頭講演とポスター講演あわせて 25 講演

招待講演者（予定）：

Jeffrey Love（米国地質調査所、国際リアルタイム地磁気観測ネットワーク議長）

Mandea Mioara（フランス国立宇宙研究センター、国際地球電磁気学・超高層大気物理協会事務局長）

Jean Rasson（ベルギー王立気象研究所）

家森俊彦（京都大学教授 地球電磁気・地球惑星圏学会会長）

歌田久司（東京大学地震研究所教授）

代表コンピーナ： 源 泰拓（気象庁地磁気観測所主任研究官）

※セッション参加には事前登録(有料)が必要です。ただし、大会の取材につきまして、事前の登録等は必要ありません。また、取材をされる方の参加登録料は発生しません。詳しくは以下の web サイトをご覧ください。

○日本地球惑星科学連合 2012 年大会 web サイト

<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>

○日本地球惑星科学連合 2012 年大会の取材について

http://www.jpгу.org/meeting/to_press.html